

2022 えにしの会

幻聴から幻聴さんへ

「幻覚&妄想大会」 誕生物語

浦河べてるの家

向谷地 生良



新ひだか	22,714人
浦河	11,000人
様似	4,352人
えりも	4,744人

風景 いちご 昆布



浦河の街並み



浦河べてるの家とは……

- 1978年、北海道日高東部地域(えりも・様似・浦河・三石町)における精神保健福祉活動の一環として立ち上がった依存症や統合失調症などの精神障害者の自助活動がベースになっている。
- 1983年、早坂潔氏、宮島美智子氏(牧師夫人)等が中心となり、教会の牧師館を借りてメンバーの仕事づくりを目的に日高昆布の袋づめの下請け作業を開始、翌年、古い教会堂(浦河教会)を拠点に、当事者の経験を活かした起業による地域貢献、「街づくり」の地域活動拠点として「浦河べてるの家」を立ち上げる。
- 活動理念は、「地域のために」「社会復帰から社会進出へ」「三度の飯よりミーティング」など
- 「地域のかかえる苦労への参加」の手段としてビジネス一起業に挑戦、過疎化が進み事業所の撤退や閉店する店が相次ぐ中で、日高昆布の産直・出版事業、会社を設立して介護保険事業に進出
- 2001年、「当事者研究」を創案、自助活動に取り入れる
- 2002年、社会福祉法人設立。わが国ではじめて当事者が理事長、施設長に就任し、就労支援、居住支援に取り組み様々なプログラムを創出、現在は、就労支援・居住支援、訪問介護・看護ステーションもかかえ90人のスタッフが働き、多くの当事者が雇用され、利用者も、精神、身体、知的等のさまざまな障害を持つ100名以上の当事者が事業に参加。
- 年間、延べ2000人ほどの見学者、研修の受け入れをし、海外との交流も盛んになっている。

4 3年の歩み

- 78年(昭和53年)－向谷地生良浦河日赤病院医療社会事業部に精神科専従ワーカーとして採用。佐々木実氏退院(現理事長)、回復者クラブどんぐりの会再開
- 80年(昭和55年)－こども(精神障害などの親を持つ)の学習支援「土曜学校」(現ノンノ学校)開始
- 82年(昭和57年)－川村敏明先生、浦河着任(5月) 早坂潔入院
- 83年(昭和58年)－AA(アルコホリック・アノニマス)発足、早坂潔氏とメンバー有志が昆布の下請け事業開始(10月)
- 84年(昭和59年)－川村敏明先生帰局(4月)、「浦河べてるの家」設立、向谷地精神科専従解かれる
- 88年(昭和63年)－川村敏明先生、浦河日赤精神科へ着任
- 89年(平成 1年)－向谷地精神科の相談再開
- 90年(平成 2年)－えにしや代表清水義晴氏より「べてるの家の本」出版の申し出、出版
- 91年(平成 3年)－SST(生活技能訓練)と出会う(前田ケイ先生)
- 93年(平成 4年)－(有)福祉ショップべてる設立
- 94年(平成 5年)－ほっとハイム入居開始(幻覚妄想大会発祥の地)
- 95年(平成 7年)－会津の商店街チャリティーによりVOP制作(えにしや代表清水義晴氏)
- 96年(平成 8年)－名古屋べてる祭り開始
- 97年(平成 9年)－TBS「報道特集」取材(斉藤道雄氏)
- 01年(平成13年)－病床再編(130床→60床)、「当事者研究」の創案
- 02年(平成14年)－(社福)浦河べてるの家設立
- 03年(平成15年)－「当事者研究」全国交流集会開始、向谷地日赤病院退職。北海道医療大学へ
- 07年(平成19年)－韓国視察団来浦、交流がはじまる
- 08年(平成19年)－協同オフィス開設:メンバーの起業支援
- 11年(平成23年)－日本精神障害者リハビリテーション学会浦河大会
- 12年(平成24年)－当事者研究ネットワーク設立(浦河)
- 13年(平成25年)－日本統合失調症学会浦河大会
- 14年(平成26年)－浦河赤十字病院精神科病棟休棟、バングラディッシュ・ラルシュ 訪問
- 15年(平成27年)－東京大学先端科学技術研究センターに当事者研究領域が発足
- 20年(令和 2年)－北海道医療大学先端研究推進センター当事者研究分野発足
- 21年(令和 3年)－向谷地、北海道医療大学定年退職

アジアだけでも数千万人の精神障害者が、家族のもとで「私宅監置（檻での生活）」の状態にある

バングラディッシュで出会った精神障害を持つ人たち

- 自宅で鎖につながれている少女
- コンクリートの土間で裸のまま暮らす30歳代の女性
- 路上で暮らす精神障害をもつ女性



日本は経済力を背景に、私宅監置を精神科病院による「社会的監置」に移行させ、世界中の精神科病床のおよそ2割を占めている。

1959年(昭和34)に開設

撮影者 坂本辰男



精神医療が陥るKKH

精神医学 = K “**困**”学 (「**困**い込み」の医学)
看 護 = K “**管**”護 (「**管**理」の看護)
福 祉 = H “**服**”祉 (「**服**従」の福祉)

1978年
精神科病棟ス
タッフルームにて



当事者が、市民としてメンタルヘルスの
課題の担い手になる

精神科に入院を経験した若者たちの交流活動(1979アポイ岳キャンプ)



この若者たちのかけがえのない経験を社会に発信する→べてるの家

精神医療における“常識”

- 病名を知らせない—精神的な負荷を与える
- 服薬している薬の目的、効能を知らせない—病気に捉われる



主治医に任せる

- 話し合いができない⇒三度の飯よりミーティング
- 病識を持たない⇒孤立、孤独、情報の無さと希望の無さによる
- 刺激を与えない⇒自分の苦勞を取り戻す
- 幻覚や妄想は、否定も肯定もしない⇒積極的関心と共に研究

- ・私たち生活者の「仲間」になること(木村敏)
- ・治療から協同研究(Coreserch)へ

「当事者研究の源流」

Co-Production (協同創造)

1970年代

○エンパワメント・アプローチ

- 難病患者運動
- 自立生活運動
- リカバリーモデル
- やどかりの里の実践
- 依存症者AA活動

「病氣」から「生きにくさ」へ

- ・当事者の力
- ・仲間の力
- ・語る力

- ・家族 ・若者
- ・LBBT ・認知症
- ・発達障害 ・企業
- ・学校教育 ・子供
- ・専門職養成・司法
- ・病院 ・支援機関

- 大学における学際的研究
- ・東京大学先端研 2015年
- ・北海道医療大学先端研 2020年
- ・国内外の大学との交流

- ・協同的実証(みんなで一緒に考える)
- ・練習の発想
- ・場面の再現と共有
- ・身体と行動への着目

1988年
SST

当事者研究

2001年

「できごと」「ものごと」「自分ごと」を研究

1980年代

○アディクション・アプローチ

SW実践の模索 ユーモア、反転/非援助、苦労の哲学、ミーティングの文化
—ナラティブ・コミュニティー—

1990年代

ハードウェアから
ハートウェアへ

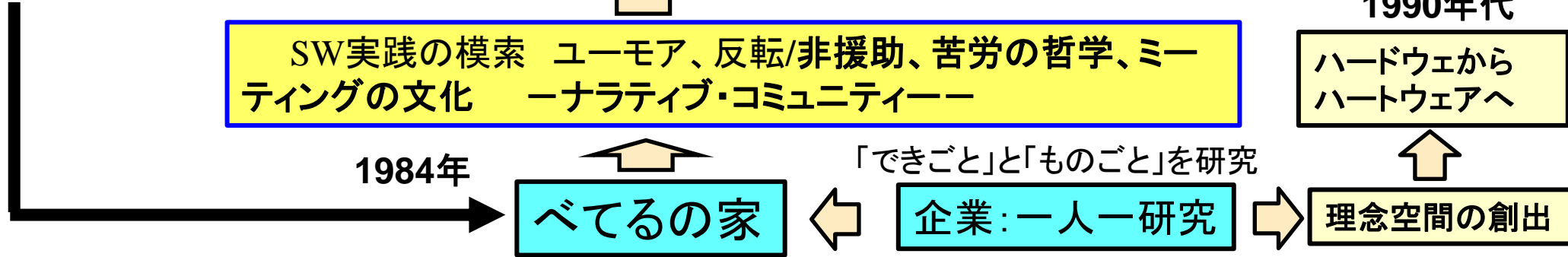
1984年

べてるの家

「できごと」と「ものごと」を研究

企業：一人一研究

理念空間の創出



幻覚や妄想への対応

- 家族は幻覚や妄想について、患者さんが自分から話さない限り、聞き出そうとしないことが原則です。
- 詳しく聞き出そうとすると、不安、緊張、困惑などがさらに強まります。
- 罾をかけるような質問で、幻覚や妄想を暴こうとするなどということには行っ
てはならないことです。
- (自分から話した時には)聞くことが中心で、否定も肯定もせず、はぐらかし
もしないという態度が基本です。
- ……幻覚や妄想に迎合的な態度をとり、安易に相槌を打つことは、不誠実
であり、妄想を補強することにつながります。

福西勇夫編「統合失調症がわかる本」法研 (2002/12)

○被害妄想は訂正不可能？

質問内容

「患者さんが、“**同室の人が悪口を言う**”と言ってきました。妄想だと思うのですが、講義では、妄想は否定も肯定もしないと教わりました。

具体的に、**否定も肯定もしない**とはどのようにしたらよいのですか。」

日精看HP「精神科臨地実習Q&A」より

○答え

「**妄想は、訂正不能**だと考えられています。ですから妄想を否定しても患者さんは“否定された”と思うだけで、妄想が消えることはありません。

また、**肯定すること**でその妄想をさらに強くしてしまうかもしれません。

・・・**大事な**のは、その妄想のために患者さんがつらかったり生活しづらくなっている点は何かということです。

・・・妄想の対象になっている患者さんを攻撃することもあるかもしれません。

これらに対し、**現実的な対処**ができるよう、ケアしていく**必要**があるでしょう。」

幻覚妄想大会発祥
の建物ーほっとハイム(別名・幻覚妄想ハイム)

二階で暮らすメンバーの窓の外に緑色の縞の牛が出現！

この経験を発信しよう！



幻覚妄想大会
グランプリ受賞場面







Hokkaido Museum of Modern Art



命名 松原 ~~朝~~ 美来

出生日 30年11月6日 14時21分生

体重 2224g・身長 43cm・血液型 型

母名 朝美 父名 へてるおたな

出生地

出産院





バクハツの理由!! / パナ1

ちやんとあるいど"辛い眠とか"
取れないマ仕事
《作業...しらいれは
安定しえられる》



松原さんののがかえり
料外... 苦勞はコレ

体感... 幻覚 & 幻覚 &
幻聴... ぞオ!! この3つの
陸状が体や頭の中に
表わると 眞美はバクハツ

もうひとこ安定は
赤ちやんを出産した
のぞ"あるいどの
まいみん《仕事&作業
赤ちやんとの生活

きこえるる幻聴...
ふわいなイヤミ声
女性のるめい/
最中のド××
変な音... 狂おける声
など...



ON
はくはつスイッチ

赤ちやんや小
さい子供を見たいわん
かんくはくはつはスツロ
になる! その時 見たいは
コは あっ小な子供が
いる びっくりさせたら 困るから
はくはつせめて小供と遊ぼう
と云う気がバツと頭に働く。



笑顔
スマイル



子供がこれからの
産んでくるのに
バクハツばかりして居ら
れない 笑がおの
お姉さんごいなくちや
優しいママにはなりたい!!
↑ 考えるコト 集る

赤ちやんを産む前

松原さんが"赤ちやんに
謝った言葉は..."

自分で産んだ赤ちやん美求を
2日連続で犯。しました!!
母親にたいはくはつ-ヒ実感し
た... している美求に 気付くと
とも優しい言葉をかけていました!!

ごめいわお母さんが
タバコを吸ったから
美求ちゃん 夢-きゆうに
なすの「
かもちのこ"めいわ

産んでからスグだっこ
させたいわん
言われた時
涙がホロ×2ほほにこぼし
落ちました!!



やめ自分の子供を
だっこすることが出来
ほほえむ 眞美



「べてるの“ぱぴぷぺぽ”語録」

- 勝手に治すな自分の病気—“診察室”ではなく、仲間の中で回復する
- 病気に助けられる—病気の症状は、生き方、暮らし方のバロメーター
- 悩み方が上手くなる
- 安心してサボれる会社づくり
- 安心して絶望できる人生—堕ちた先に希望がある
- 弱さの情報公開—「弱さ」は大切な共有財産
- 「幻聴」から「幻聴さん」へ
- 大切なものは、遠くて、弱くて、小さくて、見えにくいところから生まれる(清水義晴)



- 佐々木実さんが亡くなり、それを伝え聞いた古くからの仲間が駆け付けてくれた。
- いつも安倍総理から振り込まれているはずだといって「3000億円」の預金を引き出すために銀行の窓口で足を運ぶ幻覚妄想大会の常連のたかしさんが、泣きじゃくりながら走ってきた。
- 玄関に入ると同時に、泣きながら「佐々木さんは、いい人だった。」
- 絶対、死んでない。俺の母さんも、兄貴も、みんな星になって生きてるよ。
- 夜道を歩くと、星が“タツか、元気か”って話してくるし、あれは生きてる証拠だよ。
- 佐々木さんも、星になったんだよ」
- と言って泣き、横たわる佐々木実さんの手に優しく触れた。